

くまもと経済

C 表紙の人
Cover Story

大西 一史 熊本市長
渋滞対策「都市高速」実現へ全力

1 2023
月号

VOL.499

必読
業界・分野トップに聞く熊本の2023年

熊本展望
2023

新春グラビア

JUMP KUMAMOTO 2023 ~飛躍の年へ~

空港周辺・道路交通インフラ・益城復興・まちなか開発

広告企画

新春誌上名刺交歓／熊本学園大学同窓会・志文会特集



なかやま みねお／熊本市出身。1947(昭和22)年9月22日生まれ。75歳。熊本大学工学部卒。71年積水化学工業入社。80年学務部長。同年熊本大学学長と学術学務理事に就任

きます。データサイエンスと社会とのかかわりを学びながら、実社会に存在する課題やデータを利用した演習を行います。

AIやIoTなど、DX化は急速に進んでいます。その状況に先駆けた「eキャンパス構想を進めており、大学全体の情報教育の拠点「IoT・AIセンター」の設立など、未来社会を見据えた教育に全学的に取り組んでいます。

—入学状況は。

中山 22年度は入学者数が入学定員数を若干上回りましたが、少子化や地方大学進学率の低下などで大学を取り巻く環境としては予断を許さない状況です。

21年度に国公立大学と私立

大学の入学者数の合計が入学定員数の合計を下回ったことが、日本私立大学振興・共済事業団の調査で分かりました。これは少子化による学生数の減少で定員割れになる事態が間近に迫ってきていると私立大学の関係者に気付かせる衝撃的な出来事です。実際に21年度の入学定員数を満たせなかった私立大学は277校に上ります。前年度から93校増え、私立大学全体の46.4%を占めています。定員割れは、収容定員数4千人未満の小規模大学と地方大学で発生しやすい傾向にあります。本学はこの区分の地方の小規模大学にあたりますが、教育改革、就職も好調であることから志願者も多く、そのため定員も充足

—最後に23年の展望を

中山 現在、グローバル化が進み英語が公用語の企業など社会における英語コミュニケーション能力は必須の時代と言ってもいいでしょう。今年度の就職活動では、SILCを活用した



▲英語学習施設「SILC (シルク)」のカンパセーションラウンジ。外国人講師17人が在籍し、コミュニケーション重視の英語教育を実施している

—具体的に進めている教育改革はありますか。

中山 本学では、学生全員が自身のポテンシャルを最大に引き出し、将来の変革の激しい社会で活躍できる人材に成長させることを目標に、オリジナルの教育プログラム「SOJO教育刷新プログラム」を開始し、学生の学習習慣を定着させる仕組みづくりや、学生が持つ技術・能力を学内外に発信する取り組みを実施しています。キャリア教育「SOJO基礎」では、SOJOポートフォリオシステムを活用し、主体的に考え行動できるように身に付け、「アントレプレナーシップ入門」や企業の課題を企業と学生が共同で解決していく「キャリアアプレコオプ」などのプログラムで、大学と将来の就職先となる産業界との接続を意識した実学教育を全学的に展開しています。

—最後に23年の展望を

中山 海外留学が少しずつ再開され、本学の学生も世界に羽ばたいていますが、コロナ禍前は教員にも積極的に海外研修を推進していました。今後若手教員の研究力を高めるためにも教員の海外研修を再開させたいと考えています。

23年も学生たちの学習意欲の向上につながるよう「学生の心に火をつける」をモットーに、探究心を大切に、変化の激しい時代を生き抜く積極的で人間力の高い人材の育成に力を入れていきます。

(森口浩那)

時流見据えDX化・グローバル化を推進

環境強化し学生の成長を後押し

中山 峰男 崇城大学学長

留学再開、グローバル人材育成へ邁進

—2022年を振り返ると。

中山 新型コロナウイルスの影響で海外渡航が難しく、学生がなかなか留学できない状況が続いていましたが、22年度は状況を見ながら、タイ・マレーシア・フィリピンへ海外留学を再開することができました。また、国外からはフランス・ドイツ・ベルギー・カナダから留学生を迎え、ようやくリアルな国際交流が再始動しています。11月にはウクライナのキウウ大学より、様々な困難を乗り越え訪問研究員として受け入れをし、本学情報学科で1年間研究活動を行っています。

本学では英語学習施設「SILC(シルク)」を設置し、全学部全学科の学生が使える英語を学ぶために利用しています。SILCでは多くの外国人講師陣からコミュニケーション型の英語を学習することができ、学内にいながらも留学さながらの環境を整えています。世界の様々な国に実際に足を運んだり、留学生や外国人講師陣と実

—DX化に対応した人材育成にも力を入れていると聞きます。

中山 データを活用して新しい価値を創造できる人材の育成を進めるため、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の認定を文部科学省から受けました。本学は22年に県内初となる認定を受け「特殊講座・データサイエンス入門」を開始し、全学部学科の学生が受講できるように整えています。今後

DX化と「数理・データサイエンス」

の未来社会では従来の「読み、書き、そろばん」のように「数理・データサイエンス・AI」の三拍子が必要とされています。本プログラムでは、データサイエンスとは何か、さまざまな分野でどのような可能性をもち、今後どのような技術開発につながっていく可能性があるのかということを、講義や企業の研究開発の現場での話を聞くことによつて学びます。また、実際にデータ解析のためのソフトウェアを活用し実践的に学ぶこともで

学生が英語の面接をクリアし、希望の就職先に内定を勝ち取るなど成果も出ています。特に熊本では台湾積体回路製造(TSMC)の進出などにより、さらに英語コミュニケーション能力が広がる気配を強く感じます。本学の情報学科でも半導体回路設計コンテストを行うなど、半導体を視野に入れた教育研究面も力を入れています。日々の学習が、就職活動の成果につながるような様々な取り組みを推進していきたいと考えています。

産官学交え技術交流会

崇城大学

崇城大学(熊本市西区池田4丁目、中山峰男学長)は11月30日、同大学池田キャンパス本館6階を会場に、産官学交えての技術交流会を開催した。

名称は「SOJOLABO」第7回技術交流会。地域社会の課題解決に向け、産官学の技術交流を推進することを目的に開催しているもの。

当日は情報学部情報学科から、内藤豊助教が「地域DX・地域イノ

ベーションに向けた崇城大学IoT・AIセミナーの取り組み」、堀部典子教授が「崇城大学におけるデータサイエンス教育」と題して講演。続いて学生によるショートプレゼンテーション、ポスター発表会及び情報交換会を実施した。同大学では、交流会を通じて大学の技術シーズの活用を希望する企業や団体とのマッチングを今後とも進めていきたいとしている。



▶内藤豊助教



▶堀部典子教授

◀スライドを使いプレゼンする内藤豊助教



▶プレゼン内容について質問する出席者

県内若手芸術家に展示スペースを提供

ユナイテッドトヨタ熊本

ユナイテッドトヨタ熊本(株)(熊本市中央区十禅寺4丁目、西治三朗

科(下城賢一准教授・美術家)と連携し、実現したもの。

社長)は11月25日～12月4日までの期間、本店ショールームで崇城大学の学生が制作した作品展示会「SOJOGARTXEGG GALLERY RY」を開催した。

期間中、油彩画やイラストレーション、デッサンなど約100点が展示され、来店者が待ち時間などに作品を鑑賞していた。

今回の企画は同社内で新規企画コンテストを実施し、県内の若手芸術家を応援し、盛り上げたいという社員のアイデアが選ばれ、崇城大学芸術学部美術学

また、学生側からも「コロナ禍で展示する機会が減るなか、作品を発表できる貴重な経験となり、今後の制作活動へのモチベーションになった」といった声が上がっていた。



▲「超えていくアート、世界を繋ぐアート」をテーマに学生の作品を展示



▲「今後も続けていきたい」と会場を案内する企画担当の宮崎さん

香梅アートアワード奨励賞を2人に

お菓子の香梅

(株)お菓子の香梅(熊本市中央区白山1丁目、副島健史社長)は11月28日、水前寺成趣園内の古今伝授の間で第14回香梅アートアワード贈賞式を開催した。今回は、奨励賞を日本画家の佐藤和歌子さんと造形作家のgaju松岡志保さんに贈った。受賞した2人は「今後も良い作品づくりに努力し、チャレンジしていきたい」とあいさつした。

同アワードは熊本出身や在住で優れた創作

活動を続ける女性芸術家を顕彰する芸術賞で、企業メセナの一環として2009年に創設された。審査員は日沼禎子女子美術大学教授、楠本智郎つなぎ美術館主幹・学芸員、同社の副島隆会長が務め、受賞者には賞金のほか、お菓子で作ったトロフィーが授与された。

また、受賞者展覧会が4月8日～6月10日までの間、同社の帯山人吉、菊池、光の森の各店舗を巡回する。



▲移設110年の古今伝授の間(水前寺成趣園内)で開かれた贈賞式



▶写真左から副島隆会長、受賞者の佐藤さん・松岡さん、副島健史社長